Title	若い魂の語る言葉 ：『託された賜物 続・若い魂の養いに』を読んで
Author(s)	阿部，洋治
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.4, 2012.2 : 18-18
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3706
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

若い魂の語る言葉
――『託せられた賜物 続・若い魂の養いに』を読んで

阿部　洋治

聖学院大学日本文化学科教授であった標 宮子先生が逝かれて２年を経過した。この度、先生が、旧女子聖学院短期大学時代および聖学院大学のチャペル等において主として学生たちに語りかけた奨励集がご主人宣男先生によって編修され、出版された。

所収されている多くが、私自身耳にしたことのあるもので、読みながら、かつての語りかけるお姿やお声が懐かしくよみがえって来るのを覚える。しかし、不思議なことに、語りかけられているメッセージは、今もなお新鮮で、読んでいる私自身の魂の琴線に響いてくる。まさに、「続・若い魂の養いに」と副題にあるように、魂の養いになる素晴らしい奨励集であり、まさに「若い魂」への恰好の贈り物とも言えよう。けれども、ここで言う「若い」というのは、ただ年が若いという意味ではない。自分の問題と向き合う若さをもっている魂のことである。そういう魂にとって、この先生の語るところは、滋味深く、示唆に富んでいる。

この先生の奨励のみずみずしさは、御自身が自分の問題と真剣に向き合っているところから生れている。彼女は、決して、学生たちに向かって、キリスト者としての立場から人生問題の回答を与えるような語り方はしない。そうではなく求道する一人として、聖書に聞きながら問い、聖書に問いながら聞いている。

たとえば、彼女は、「恐れるな、わたしはあなたをあがなった」というイザヤ書43章１節の言葉をめぐって次のように記している。

> 実は私はこの聖書の言葉によって信仰の世界に入りました。自分が嫌で自己嫌悪に陥っていた私にとって、自分をあるがままに受け止め、自己受容するなどということは至難の技、全く不可能なことでした。嫌いな自分をどのように して好きになれますか。短所を努力して長所に代えることができたら、好きになれるかも知れません。しかし自己克己ということがそうやすやすと簡単にできるくらいなら、私たちは初めから自己嫌悪などに陥る必要は無いのです。嫌なのに変わることができない。変えることができない。それ故に悩むのです。（74頁）

この先生は、高校二年生で洗礼を受けて以来、自分自身の問題と生涯に渡って真摯に向き合っていることが全体を通しての印象である。クリスチャンになって問題が解決したというのではなく、むしろクリスチャンである故に自己の問題から目が離れず、しばしば自己嫌悪に陥る。しかし、そういう魂に向けて語られる神の赦しの呼びかけを聞き、彼女は、赦されて生きる恵みを絶えず確認しつつ歩んで来た（108～109頁）。聞いて癒されて語る。ここに彼女の語るメッセージの新鮮さがある。

彼女の奨励のもう一つ大切な点は、その語り口にある。聖書に深く聞きつつ、広く深いパースペクティブを持って、その都度その都度、必要な話題に触れながら展開している。ここにこの人の奨励の豊かさの一面がある。

（あべ・ようじ　女子聖学院中学・高等学校校長）

託せられた賜物―続・若い魂の養いに
標 宣男　篇／標 宮子　著
税込価格¥1,890
発行所：キリスト新聞社
2011年10月25日刊行
ISBN978-4-87395-598-8
表紙デザインは標宮子召天記念として作られたステンドグラスより（日本基督教団滝野川教会百周年記念館）